

北海道トレセンU-12全道選抜大会 根室地区トレセンU-12 レポート

遠征日程： 8月2日（火）～5日（金）

場 所： 池田町河川パークサッカー場（宿泊先：十勝川温泉笹井ホテル）

指 導 者：U-12 監督 菅原 則幸

コーチ 藤本 哉（羅臼JFC）、木村 太一（別海サッカー少年団）

はじめに

大会日程は3日～5日ですが、根室地区は前日入りし、札内川河川敷サッカー場で十勝地区、室蘭地区、函館地区と練習試合を行いました。毎年、十勝地区のトレセンスタッフが前日の練習試合の準備をしてくれています。ありがとうございます！

2日は13時半ころに到着。気温は30度を超えていました。コンビニで氷を買い込み、選手がつかめたい水で給水できるように対応しました。7月の津別遠征の課題をチーム全体で共有し、翌日の大会に向けて大変良い準備ができました。

試合での取り組み

チームテーマは、引き続き“ボールを奪う！ボールを失わない！ゴールを奪う！”です。3つのテーマのなかで攻撃・守備のポジションやチームとしての優先順位、攻守切り替えの準備と対応についてチーム全体で確認しながら試合に臨みました。

さらに津別大会で問題点となった、キック、コントロールの精度の悪さをカバーするために、ボールを受ける前の身体の向きや味方とのコミュニケーションの方法・タイミングなど常に良い状態で準備しておくことでファーストタッチの精度を上げる取り組みをしました。

また、相手のプレッシャーの中でプレーをすることも精度を落とす原因となるため、早い判断と早いプレーで相手のプレッシャーを受けない（かわす）プレーについても全員の課題として取り組みました。

試合前・後にミーティングを行いさらに宿舎でもミーティングを行い、選手個々が自分のプレーとチーム全体のプレーについて評価・改善点の洗い出し、課題の設定を行うよう「考え、話し合い、発表し、結論を出す」という時間をたくさんとり、「試合で実践する」ことを繰り返しました。

試合の様子

3日の【第1試合はVS苫小牧で前半0-0、後半0-2で敗戦】

攻めの形は前日の練習試合で確認したことができていましたが、その分、守備の意識が薄れ失点につながりました。

試合後の北海道トレセンのスタッフからのアドバイスでは、チャレンジ&カバーの基本の指摘があり、早いチャレンジが足りないこととカバーのポジショニングの悪さが失点の原因となっていることが挙げられました。特に、後半チームに対する意見だったと思いますが、ゴール前での攻防から2失点したためゴールを奪われないための対応についてチーム内でも改めてミーティングを行いました。

【第2試合はVS旭川で前半0-1、後半0-4で敗戦】

この試合も守備の甘さがでてしまい、後半チームが大量失点しました。相手ゴールの前までボールを運ぶという点ではチーム全体の意識もあがり攻め込むシーンが多く、シュート数も多くなってきてきましたが、得点に結びつかず、「気持ちを込めて、コースを狙って強いシュートを打つ」という部分をみるこ

とができない状況でした。

【第3試合はV S 小樽で前半0 - 0、後半1 - 0で初勝利】

しかし、1勝2敗で苦小牧と勝ち点で並び得失点差で4位となってしまいました。

4日は、グループ別ブロックリーグで各地区の選手を4つのグループに分け、同じグループ名の選手で1つのチームを編成し、対戦しました。選手たちにとっては、他の地区のトレセン選手と同じチームでプレーすることとなり大変、貴重な経験となってしまいました。

5日は、4位グループの対戦で、1試合目はV S 道北で前半2 - 1、後半0 - 0で勝利しました。

相変わらずシュートが決まらず、道トレストaffから、「根室の選手はなぜ踏み込んで強いシュートをつたないのか？」と疑問を投げかけられるほどでした。利き足の前にボールがあっても自分のキックポイントではないためか、コントロールし直してから利き足でシュートを打とうとしている間に、相手にプレッシャーをかけられ苦し紛れのシュートとなったり、ノーマークのシュートでコースを狙おうとしてかインサイドキックでゆるーいシュートをうったり、インステップでも足を振りぬかずに当てるだけのシュートだったり、見ている側（ベンチも応援の保護者も）は、非常にストレスの溜まるものでした……。しかし、シンプルに縦や相手の裏を狙い、相手が守備をし難い状態で仕掛ける攻撃はどんどん精度を上げ、相手ゴール前でのプレーが増えたことは成果として受け止めたいと思います。その分、シュートチャンスが増えたため、得点を決めきれないストレスが増えたのです。

最終戦は、V S 宗谷で前半1 - 0、後半0 - 2で負けてしまいました。

前半は1点リードです。内容的には失点しない守備では安定感・安心感ができて良かったと思いますが、チャンスで得点できないのは相変わらずでした。後半は風上になった相手チームがGKからのカウンターを多用し、根室のペナルティーエリア付近まで来るボールに根室のGKが対応するプレーが多くなり、その内の何回か飛び出す判断を迷った結果、無人のゴールにシュートを決められることとなり敗戦してしまいました。“勝ちたい”という根室の選手たちの気持ちが観えた試合だったと思います。

攻める気持ちが強いと、決め切れなかったときは相手のカウンター攻撃となり、攻めた分、カウンター攻撃をもらうという展開になっていました。攻守が切り替わったときのDF対応やDFのリスク管理、DFとGKとの連携など失点の原因はありましたが、選手がチャンスだと思って攻め上がっていった判断は尊重してあげるべきと考え、課題は次に繋げていきたいと思っています。

最後に！

本大会で、前回の津別大会での課題が全て改善できた訳ではありませんが、選手自らが課題を探り、対応を考え、試合で実践する。という繰り返しは、4日間の遠征の中で選手たちの大きな成果と自信に繋がったと思います。

チームテーマに沿ったプレーが一試合、一試合、目に見えて表れたことは選手の伸びしろの現れである反面、短期間で伸びるということは根室4種のレベルの底上げが必要だという、課題の表れでもあります。

こくみん共済リーグなどの場を活用しながら、根室地区技術委員会と連携し、各チームと根室4種の課題を共有し、実践に反映できるような取り組みを行っていきたくて考えています。

トレセン活動にご理解、ご協力をいただき、各チームの指導者のみなさん、保護者のみなさんに感謝申し上げます。